

中堅・中小企業向けトランザクション型貸出の決定要因： 企業属性に応じた適性に関する一考察

みずほ総合研究所 太田 智之

みずほ総合研究所 小野 有人

みずほ総合研究所 野田 彰彦

近年、中堅・中小企業を対象としたトランザクション型貸出がわが国でも広がりつつある。トランザクション型貸出とは、企業の財務情報等の定量的な「ハード」情報に依拠した貸出手法の総称であり、具体的には、クレジット・スコアリング貸出、CLO・CBO、動産担保貸出（ABL）、シンジケート・ローンがあげられる。本稿では、みずほ総合研究所が2006年8～9月に実施した企業アンケート調査を用いて、上記4つのトランザクション型貸出手法を利用している（あるいは利用を希望している）中堅・中小企業に関するプロビット分析を行い、これら企業の特徴を、企業規模、信用リスク、企業と銀行とのリレーションシップ、の観点から明らかにする。主な分析結果は、以下の通りである。

第一に、クレジット・スコアリング貸出、CLO・CBOでは、規模の小さい企業の利用確率が高くなっており、多数の債権をポートフォリオとして束ねて与信することで、審査・モニタリングが相当程度効率化され、中小企業金融における規模の経済の問題が緩和されていると考えられる。一方、ABL、シンジケート・ローンでは、企業規模が大きくなるほど利用確率が高くなっている。

第二に、信用リスクの高い（信用評点の低い）企業ほど、クレジット・スコアリング貸出、CLO・CBO、ABLの利用確率が高くなっており、これらのトランザクション型貸出は、リスクの高い企業に適した貸出手法といえる。一方、シンジケート・ローンについては、信用力のある（信用評点の高い）企業ほど利用確率が高くなっている。

第三に、企業と銀行とのリレーションシップとトランザクション型貸出の利用確率の関係をみると、取引金融機関数が多く、金融機関との物理的な距離（金融機関の立地）をあまり重視しない企業ほど、総じてトランザクション型貸出の利用確率が高くなっている。トランザクション型貸出は、基本的にはリレーションシップ貸出と代替的な関係にあると考えられる。ただし、潜在利用企業を対象とした分析では、銀行とのリレーションシップを重視する企業で、トランザクション型貸出に対する潜在ニーズが高いことを示唆する結果も、一部得られた。